

<グループ1>

10年後、どんな村にしたい（なってほしい）か？

- ・企業誘置等は企業側の意見を、一番はインターが近い所を考えるべき。
- ・総合計画はそれぞれの項目を住民で実施できる体制づくりを！
- ・人口は6,500人程度が良い。多くなると施設等が中途半端になるため。
- ・文化財は八ヶ岳山麓、茅野市・原村・富士見町で一帯に学べるよう。
- ・医療・福祉は村独自の施策を、その他市町村と共同でできるものは共同で。
- ・子ども時代を楽しめる場所
- ・今の集落の絆はなくなる。自主防災組織で集落（単位）絆を。
- ・子どもに村の一員だと思ってもらう→子どもが村づくりに参加する。（村民全員が参加）こども議会からこども役場→村の問題全てを子ども達が話し合う。
- ・小学生「僕の友達は100歳です！」←0～100歳の人が仲良くしていることで、そう思ってもらいたい。
- ・先ではなく今。10年間、いつでも「今」を良くしたいと考えて動けば、必ず素敵な村になる！
- ・10年後ではなく、「今」村にいてくれる子どもを大切に。村が好きなら戻ってきてくれる。
- ・帰ってきたくなる村、原村
- ・移住者が増えるのではなく、戻ってくる人が多い村。そのためには、原村を子どものうちに好きになってもらう。（あそび、居場所）
- ・屋内と屋外どちらも充実した子どもの居場所
- ・あやめ園周辺にリーダーハウス付きのプレイパークを。
- ・自然の中でみんなが交流している村
- ・多くの世代が交流できる公園を中心地に。
- ・自然文化園は歩いて行けない。歩いて行ける場所は子どもも、おじいちゃん、おばあちゃんも行ける。
- ・高齢者のIターンだけではなく、若い人が来たい村。
- ・今の子ども達、将来の子ども達が「好きだ」と思える地元にする。
- ・ちょっとくらい不便でも、村が好きなら戻ってくる。そして良くしようと村が好きなら動いてくれる。
- ・「うちでお茶していいよ」の家（子どもの駆け込めるではなく、安心して寄れる）を村内に。かわいい看板とか付ける。防犯。
- ・登下校中に遊べる場
- ・見回りや通学路に立つのではなく、自然と外にいる人が知り合いで安心。
- ・今回のワークショップに誘った高校生に言われた一言です。→「こども議会で言っても実現しなかったから、どうせ今回もムダ」こんな思いを子ども達にさせない村を。

10年後をイメージした村の実現のために必要な取り組み

- ・農業振興、一時の集落農業はできなかったのが、原村全体の団体・法人化を早く設立すべき。
- ・田んぼや畑、森、川、原っぱ（自然）を遊べる場所として残してほしい。
- ・地域への子どもの参加、親の参加、おじいちゃん、おばあちゃんの参加。一緒に作る村。
- ・自然はこれ以上の別荘等は考えない。土地の利用、もう自然はない。
- ・特色ある農産物の育成
- ・ゾーニングを担保するための強い環境保全条例の策定
- ・自然保護と産業（農業）のバランスのとれた発展（村の特色として）
- ・65歳以上医療制度の見直し
- ・温泉が不可欠、もみの湯
- ・教育を大切に作る村づくり。（人間性を大切にしたもの）
- ・環境、産業、子育て、福祉、教育の総合的なプランニングを。
- ・みんなで集まって騒げる場がほしい。今の小学生、中学生が卒業しないうちにつくるべき。「今」の村が住みやすければ戻ってくる。
- ・子どもと大人の間での交流が少ない。あいさつなど簡単な事からでも、もっとやるべきである。
- ・もっと星をアピールしていくべきだと思う。
- ・セロリも原村のブランド品として、人の目につく所でのアピール。
- ・この10年で外遊びが減っている。今つくらないと10年後にはなくなる。
- ・「子育て」（親、大人）ではなく、「子育て」（子ども自身）を大切にする村。（例：学童長時間はいいけど、本当に居たい場所になっているか？）
- ・原村公民館1ヶ所だけでなく、各地区で講座など人の集まれる機会づくり。（企画者、活動支援金）村全体も大切だけど、地区での活動も大切に。
- ・企画力、創造力のある子どもを…→成功するかしないかではなく、まずやってみる機会を。（例：年50万、好きに使っていいよを考える授業）
- ・野菜づくりが当たり前の村（家庭菜園の支援、特に若い人だけの家庭）
- ・農業を教えてもらえる機会作り。農家を含めて働ける場所作り。
- ・高校生無料は残す。65（70？）は診療所だけ無料。
- ・住民の中に多くの技術を持っている人がいるので、大いに活用したらどうか。
- ・新たなイベントも楽しいが、今ある伝統行事も出来るだけ残していく。

その他

- ・この中から「10年後までにやろう」ではなく、「10年後のために“今”からやろう！」という計画をお願いします。この5回のワークショップに参加した村民の声をムダにしないで下さい。
- ・高校生がいなかったグループから子どもについての意見が少なかったのが気になりました。このワークショップを小・中・高を対象として実施して下さい。（その時はぜひCHUKOらんどチノチノに声をかけて下さい。全力で協力したいです。）
- ・子どものことを大切にしている大人の姿を子どもに見てもらうことで地域を好きになると思う。大人が全力で子どものことを考える会議を大人と子ども一緒にやりましょう。
- ・シカの牧場はとてものいいのでは。富士見のルバーブのようにブランド化を。正直、農業の村はいくらでもあるので…。

<グループ2>

10年後、どんな村にしたい(なっしてほしい)か?

- ・10年後も原村であってほしい。(統合せず)広域での事業も行いながら。
- ・10年後も星がきれいに見える村にしてほしい。(村の特性を生かしたイベント)
- ・自立した経済
- ・“ありがとう”“お互いさま”が飛び交っている村
- ・今の景観が保たれていること
- ・若者から居住したくなるような魅力ある村に。仕事・住む所・福祉(子育て)
- ・観光地としての景観を守るガイドライン(家あまり)
- ・緑にあふれ、水・空気がきれいで、農地の活気に満ちた八ヶ岳の見える景観の良い高原。
- ・美しい自然と笑顔のあふれる住民が生活している村であって欲しい。
- ・小規模な事業が沢山、活発に機能している村。
- ・村内の暮らしと産業に必要なエネルギーが自給できる村。

10年後をイメージした村の実現のために必要な取り組み

- ・村有林の開放
- ・森林の手入れ。薪ストーブの使用。
- ・特色ある農産物の生産
- ・エゴマブランドで村づくり
- ・エネルギーの地産地消(木質バイオマス、森林手入れ、薪・ペレット他)
- ・季候風土にあった農産物の生産
- ・景観破壊、乱開発を規制する条例や法律の整備。
- ・農地がいとも簡単に開発されてしまわないための規制。
- ・エネルギーの自立。家庭のエネルギーの自立、産業分野のエネルギーの自立。
- ・持続可能な環境維持。エネルギー、産業。住民の生活が自立して営むことができるように。
- ・電線等の地中化
- ・保全地区以外の(にも)景観形成の策を。
- ・資源の循環。まず抑制、出さない。(ゼロウェイストを目指す)LCAに基づいた評価と物づくり。
- ・Japan Visitなどと連携したプログラム。会議、観光、スポーツなどの団体誘致を。
- ・起業支援を活発に行う。→出来上がったものに支援するだけではなく、「やろう」とするものを支援する。
- ・第2創業、社内新規事業を支援する。
- ・産業支援の情報を末端まで浸透するようにする。
- ・第一次産業の発展。後継者支援。農地、農機バンク、コーディネーターとの連携。
- ・働くための育児支援を充実する。
- ・再生可能エネルギーの確立のために全力を尽くす。→地域存続の鍵
- ・省エネルギーのための行動を普及していく。
- ・学校教育。全ての子供が基礎学力を身につけることのできるような支援。→塾との連携
- ・星が見やすくなる街灯
- ・農業も風景(田んぼとか)の一部←守るべき宝

その他

- ・鹿牧場。生肉、農業を守る、料理。
- ・事業に見合った収入源

<グループ3>

10年後、どんな村にしたい(なっほしい)か?

- ・あたり前の目標でなく、柱になる構想が必要。すべてが線で結びつくような構想。
- ・お年寄りの生きがいづくりのため、伝承の場としての若者と年寄りの交流の場づくり。
- ・循環型社会を目指す。自給自足のできる村。10年と言わず20年30年後を見据えた村。
- ・まずは高齢者対策。「安心して老いを迎えられる村」
- ・“地域で”子どもを育てる村
- ・自然から学び自然と遊ぶ、有給プレーリーダーのいるプレーパークを常設に。
- ・自然の中で子供が遊び、人々が生きる村
- ・自然を生かす
- ・自然エネルギーでエネルギーの自給自足を目指す。
- ・エネルギー自給の村
- ・「空き家ゼロ」の村
- ・縄文の「ヘソ」(中心地)原村
- ・縄文時代から続く自然と人との共存。里山の形成。
- ・様々な面における親の教育
- ・小さいことはいいことだの精神!小さいものを大事にしていく。
- ・「遠くから見守ってくれる親」がいいと思う。

10年後をイメージした村の実現のために必要な取り組み

- ・若い人の農業に携われる条件、計画などが用意されることが大事。
- ・人口減少の中、子供たちの笑顔、子供たちが増えるのが最高の望みだが…。
- ・子ども達を地域で育てるしくみを作る。みんなで子どもや子育て世代を応援する村。
- ・税金は10年後の村の姿を見据えて使う。無料化が全てではない。
- ・原村の自然を残すために、自然農(農業を減らす)多様性の維持。
- ・美しい村を保つため、森林の手入れが大切と思う。
- ・美しい村、道路端の看板の規制
- ・文化レベルを上げるため、原村どこでも図書館。えんがわ文庫、わらしべ文庫
- ・国際交流。子ども~大人の居場所。中国、英語圏
- ・地域行事を大切に
- ・農業=治山治水。荒廃農地拡大。農業は儲からない。
- ・基幹産業、農業を元気にしたい。
- ・土産物500円~1000円位の手軽な原村独自の土産
- ・隣の人のために農業を行う。地産地消の村。
- ・村づくりを自分のこととして実行できる人材育成のため、師が教えるより自ら考える学習を!
- ・「どんな村にしたいか」←小・中・高校生に聞いて下さい。(10年後をイメージできる人、10年後に主役になっている人)

その他

- ・高齢者が増えるのは間違いないので、公共交通のバスの運行が増加されていること。

<グループ4>

10年後、どんな村にしたい(なっしてほしい)か?

- ①
 - ・子供を大切に、高齢者も安心して生活できる環境を作ることで、転入者を増やす。そのためには現住人たちが力を合わせて「村づくりにつとめる」ことが大切。
 - ・活力ある移住者の力を引き出せる環境づくりを。(30年の住民)
 - ・新住民(?)が環境の良さを享受するだけでなく、積極的にお返しをしないといけない。
 - ・すばらしい環境や守ってきた村に人へ感謝を示すべき。(移住者)
- ②
 - ・新旧の人たちが、お互いに尊敬できるように、理解できるように。
 - ・元から住む人と移住者が協調、融和できる村に。(まだ乖離している)→移住者
- ③
 - ・原村育ち、原村で生活している人と、新来者(昭和20年以降、昭和40年代以降)が互いにrespectしている村→移住者
 - ・山麓開発以来、当初想定していなかった行政課題をはっきりとさせ、村民として共通課題にしたい。→想定外のことへの対処
- ④
 - ・原村に住むことに誇りがもてること。「これ」というお気に入りがあるようなものをつくり出す。
 - ・死ぬまでここ原村で生活する、安心してそう決心できる村。(防災・福祉)

10年後をイメージした村の実現のために必要な取り組み

- ・自然の中で都会と同じ仕事ができる環境作り→仕事
- ・住民が、各自の持てる能力を活用できる「場」づくり。①ボランティア②働く場(交流スペース)、企業など→能力
- ・人が集まる場を作り、どんな世代の人でも出入りでき、交流のできる所を作る。→人の活用、交流
- ・「〇〇できる人」の登録制と活用。教育分野/地域支援事業に参画していただく。(有償、無償に関わらず)→人の活用、交流
- ・自然を活かした子育て、森のようちえんをつくる。(富士見のような)→若者
- ・地元やUターンのボランティアベースでもがんばっている若者のバックアップ(←大人が)→若者
- ・高齢者、乳幼児、青少年~すべての年齢層対象に、健康・スポーツ産業の振興→健康
- ・医療費の増加を心配するより、健康作りに力を入れ、結果的に医療費が減少できる。→健康
- ・遊休農地、遊休農具を原村全体で有効活用するしくみをつくる。(人との出会いが大切)→農マッチング
- ・農業後継者がいない家が増加。何軒かまとまって農地や機械を管理する。→農マッチング
- ・エネルギー問題、村で電力会社を作ったら…。→エネルギー自給
- ・ゴミ回収の最終的解決。回収地がない。(別荘地において)→ゴミ

その他

- ・総合計画をつくる際、私達の意見はどのように反映され生きてくるのか。
- ・そもそも、これまでの10年間振り返ってできたこと、できなかったことを整理してから踏まえ考えるべきではないのか。
- ・今回出てきた具体的な意見を、どういった方法で誰が村の施策に組み込んでいくのかがわかりにくい。

<グループ5>

10年後、どんな村にしたい(なっしてほしい)か?

- ・日本で最も美しい村
- ・エネルギー自給の村
- ・安全で美味しい食文化を発信する村
- ・安全、健康、長寿の村
- ・未来を担う人材を育む村
- ・自主、自立(律)の村
- ・阿久、縄文文化に学ぶ村
- ・第一次産業を中心にした里山ビジネスを推進する村
- ・地域(各区)で支える原村
- ・今ある自然環境を維持している。
- ・農作物などのブランド化
- ・隣近所が繋がれるコンパクトな集落づくり
- ・バイオエネルギー等を利用した村のエネルギー自給率の向上した村づくり
- ・原村と言えば“農業の村”と認知された村
- ・日本昔話に出て来る自然でのんびりした人の輪のある村

10年後をイメージした村の実現のために必要な取り組み

- ・集落単位で対応できる体制作り。防災、介護、教育、スポーツ、健康づくり
- ・育児・介護(預ける施設は別として)があっても安心して働ける!
- ・区内で相談できる体制づくり(交通、教育、一時預かり、生活把握、雪かき、家事、災害、ボランティア育成など)
- ・機関(区ではなく新たな働く場)
- ・家族への教育(育児、介護を人任せにしない)
- ・横の繋がりの強化
- ・おいしい、安全な作物
- ・農業従事者が増える(働く場、指導等)環境づくり
- ・自主防災コミュニティ活動で暮らし易い地区を作る。
- ・村民が助け合える村づくり“おとなりさん活動”
- ・安心・安全の野菜生産
- ・自然は今のまま、40年前位にトンボ・ホタル・チョウの飛ぶ村にする。“化学農薬を使わない等”

その他

- ・日本の食糧自給率を上げるのが急を要する。原村は農業の村で繁栄してほしい。
- ・理念・目標項とボトム型?(ピラミッド型)に組み立てられているが、それぞれ関係性があるので、ネットワーク型にできないものか。